



2014
呉高専 創立50周年

呉高専だより

■50周年記念ロゴ（呉高専は2014年で創立50年になります。）

68号 2013.9



バスケットボール部・女子バスケットボール部

も く じ

- ・2年目の夏に想うこと (校長 森野 数博) …1
- ・学校と共に学生たちのために (後援会会長 開地 義明) …2
- トピックス
 - ・呉高専ショールームの完成 (建築学分野 佐々木伸子) …2
 - ・人事交流を終えて (自然科学系分野 赤池 祐次) …3
 - ・イギリス在外研究について (建築学分野 下倉 玲子) …3
 - ・おもしろ科学体験フェスティバル in 福山
 - (教務主事補 井上 浩孝) …4
 - ・学校見学会 (教務主事補 林 和彦) …4
 - ・公開授業アンケート結果 (学生課教務係) …5
 - ・安全標語受賞者の表彰式 (人事係長 鳥山 剛) …6
- 新任教員紹介
 - ・研究の楽しさを体験しよう! (自然科学系分野 川勝 望) …7
 - ・就任にあたって (機械工学分野 西坂 強) …7
 - ・就任にあたって (機械工学分野 尾川 茂) …8
 - ・母校で始める新しい生活 (環境都市工学分野 谷川 大輔) …9
- 学生寮から
 - ・学生寮へのエアコン設置 (寮務主事 高津 康幸) …9
- 研究レポート
 - ・著書、まもなく25冊を刊行 (人文社会系分野 外村 彰) …10
- 市民セミナー
 - ・海外旅行で役立つ英語～これだけは知っておきたい～ (人文社会系分野 上杉 裕子) …11
 - ・地形模型を作ってみよう (環境都市工学分野 河村 進一) …12
- 国際交流
 - ・新しい国際交流パーティーの幕開け～前へ歩み出した国際交流室の証し～ (国際交流室長 竹内 準一) …12
 - ・北米地域との青少年交流事業 (国際交流室 加納 誠二) …13
 - ・国際交流ボランティア (建築学科1年 白敷 夏生) …14
 - ・私の新しい友人 (建築学科4年 桑田 千愛) …14
 - ・親心に国境は無し (里親会代表 海生 郁子) …15
- 学生相談室から
 - ・弱点を知っておくことの利点 (学生相談室長 岩城 裕之) …15
- 大会結果
 - ・第49回中国地区高等専門学校体育大会成績 …16
- 安全・安心な食堂運営について (寮食堂・学生食堂・売店 店長 辻 操) …17

2年目の夏に想うこと

校長 森野 数博



いきなり私ごとで恐縮ですが、初孫が生まれて6か月余り経ちます。笑顔はもちろんです、寝顔や泣き顔、あくび姿に足パンチなど、彼女の一挙手一投足に

笑いが広がります。孫がかわいいとは聞いていましたが、正直なところ、これほどとは思いませんでした。

それにしても、育児はたいへん。♪・・・おっぱい飲んでネンネして、抱っこしておんぶして、また明日♪という歌がありますが、オシメ替えから風呂入れまで、いつときも手を抜くことができない。我々はこのように周囲の手を煩わせ、愛情をもらいつつ大きくなったんだ、と娘夫婦や妻の姿を追いながら、改めてそう思ったことでした。

閑話休題。呉高専にやってきて、1年半近く経ちました。校長の役目は“いい学生を育てること！”これに尽きます。この夏、本校の運営全般に関し、外部の有識者の方々からご意見をいただく運営顧問会議を開くことになりました。そこで、この機会に呉高専の現状を分析し、その状況を総括してみました。

分析を行ったのは、次の3項目について。ひとつは学生の状況。教育実績と課外活動実績についてです。もうひとつはそれを支える教員の状況。とりあえず、研究実績と外部資金獲得実績を取り上げました。最後は、それらをひっくるめての本校に対する外部評価。いろいろな観点が考えられますが、入口側として入学者からの評価、出口側として就職受入先の評価。そして、社会全般からの評価として、マスコミ報道件数を上げました。その結果は、……。思っていた以上に芳しいものではありませんでした……

一人ひとり学生は個性があり、みんな違って

います。また、それぞれに優れた能力をもっています。感受性豊かな青春まっただ中、長丁場の集団生活となる高専において切磋琢磨しつつさまざまな経験を積むことでもてる能力をブラッシュアップし、強く逞しくしなやかな心身を育て、その個性をつぶすことなく大きく伸ばしたい。私は長く高専で教員をしてきましたが、これが、学生と接する上でコンセプトとしてきたことがら。預かった学生一人ひとりの貴重な人生が充実したものとなるよう、そのときどきに置かれた立場で、最善の努力を行ってきました。そしていま、立場は校長。なにをなすべきか……

いま本校が抱えている課題は多岐にわたります。専攻科の統合再編をはじめ、各学科・専攻科で養成しようとする技術者像から具体的到達目標、そしてそれを実現するためのカリキュラムの再構築等々。そこで、これら教育全般の関連事項について検証し、検討するため、呉高専教育改革検討プロジェクト（林 和彦委員長）を8月に立ち上げました。どのようにして社会のイノベーション化に対応し、グローバル化に対応しうる人物を育てるか。

じつは、これらのなかで最大のポイントは人間づくり。知識の修得以前に、まず人間教育。これが肝要。先日の運営顧問会議でも、多くの委員の方々からその重要性が指摘されました。まずは遅刻・欠席をなくすこと。学生らしい身なりをすること。教室をきれいに整理・整頓し、構内は除草を怠らず、ゴミを捨てないこと。停学処分は、もう十分です。

「Realize Your Dream」我々は「君の未来を共に創る」ことをみなさんに約束しています。ですので、高い志をもって呉高専を選択し、入学されたみなさんの「夢を実現」するよう、努める責務があります。入学させた学生はひとりも落ちこぼすことなく、呉高専の学生なら“どの学生でもOK!”といえるレベルをめざしたい、と2年目の夏、決意を新たにしています。

学校と共に学生たちのために

後援会会長 開地 義明



先日開催されました総会において承認され、平成25年度の後援会会長をさせて頂くことになりました開地と申します。色々と不慣れなこともあります。皆様方のご支援を頂きながら、呉工業高等専門学校後援会を盛り上げてまいります

ので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、呉工業高等専門学校後援会は、呉工業高等専門学校に在学する学生たちの保護者をもって組織する会であり、呉工業高等専門学校における教育の充実や振興に寄与する事、また、併せて会員相互並びに会員と学校との協調を図ることを目的として、昭和39年4月の開校時から、後援会会則に基づき、様々な諸活動を行っております。現在の後援会の主な事業は、学生たちへの様々な支援を目的とし、①学習や課外活動に対する助成事業、②就職斡旋、③生活環境の整備などの援助活動を行うことです。また、高専祭出展の際には、おでん無料券の配布を行うことで、保護者の皆様方の来校を促進し、また、マラソン大会の際には、学生たちにぜんざいを提供するなど、役員の方々でお世話をさせて頂いています。私自身、杉本元会長、堀本前会長の下で役員として活動をして参りました。私が、初めて後援会で役員を引き受けた頃は、実働して下さる方はほんの少しでした。しかし、お二人の会長の『後援会活動をもっと活発にしたい』との熱い思いと活動から、現在では両手でも足りないくらいの皆さまにご協力を頂いております。本当に嬉しいことです。この、お二人の功績を継続して行くことが私の役目だと思っております。一方、学校の方では、昨年、新たに森野校長先生が就任され、呉高専も今までの高専とは一味も二味も違ったものになるものと思われま。自由な校風で生活してきた学生や保護者の皆さまには少し違和感があるかも知れません。しかし、この変化により学校の評価が上がり、呉高専に通う学生達にとって、就職や進学活動に良い影響が出るのであれば、我々後援会は協力しないわけにはいきません。これからも、学校環境や学生達への教育環境がより良くなる事を目指し、学校側と協議しながら、呉高専の学生をより良い方向に導いて行きたいと考えております。保護者の皆さま方も、どうかご理解を頂き、ご協力下さいますよう、宜しくお願いいたします。

呉高専ショールームの完成

建築学分野 佐々木 伸子

2013年7月、図書館棟玄関脇にスポットライトに照らされた小さなボックスができました。これは、呉高専の学生や教員の活動成果を広くみてもらうためのショールームです。

ここには、ロボコンやデザコン等のコンテストや学生や教員の研究、クラブ活動等の成果が展示されますが、単なる表彰の展示ではありません。展示は、その概要だけでなく、どんな工夫が評価されたのかといった内容とどうやってできたのかといった活動のプロセスをポスターで説明することが大きな特徴です。評価された成果だけでなく、そこに至るまでの過程をみてもらうことによってもものづくりの難しさ、楽しさ、やりがい伝わると思います。

このショールームは、この3月に卒業した建築学科5年幸田進之介くんが描いてくれたCG画像を元に、施設係の門出さんやたくさんの専門業者のみなさんの協力でできました。CGのイメージを損なわないように詳細な検討を行い、精密な施工をお願いしました。

デザインモチーフは、サンピエトロ寺院にある「スカラレジア」という回廊です。遠近法を使ってバロック的な非日常の劇的な雰囲気的空間をイメージしています。

これからこの空間が呉高専の活動を伝えて行きます。展示を見る時は、その内容とプロセスをしっかりとみてください。また、自分の活動が展示される日を目指してがんばってください。



人事交流を終えて

自然科学系分野 赤池 祐次

昨年度は高専間人事交流のため、東京高専へ勤務しました。これまで他高専の内情を知らずにいたので、大変良い機会を与えていただきました。この経験で得た多角的な視点を今後の仕事に生かしていけたらよいと思っています。

東京高専は八王子市栢田町にあり、高尾山のふもとの自然豊かな場所にあります。おかげで昨年度は快適なウォーキング、ジョギングを楽しみました。赴任してまず驚いたのは始業式がなかったことです。制服もありません。「呉高専は3年生まで制服」と学生に言う。「いいなあ」という返事。成績は点数でなくABCDでつけます。大学に近い感じです。

進級は呉高専より厳しく、学生は大変だと思いました。その他特徴的なことを書いてみましょう。

- 2年進級時に学科配属が決まります。配属人数が多い場合1年生の成績で決まるため希望する学科に行けないことがあります。
- 授業日数が足りない曜日は土曜日に振替授業を行っています。そのおかげで夏休みは8月1日から。ただし9月初旬に試験返却日があります。
- 寮生は約170人でした。2か月間の仮入寮制度があります。成績不振の寮生は上級生の監督の下で夕食後2時間程度の自習を課せられます。朝風呂に入れます。
- 湘南海岸を目指して44km歩くチャレンジウォーク、2年生スキー合宿(写真)があります。長年勤務されている先生方はこの学校行事を自慢に思っているようでした。実際参加して確かに羨ましい。
- 学年末試験終了後、3日間の試験返却日を設けて2月22日から春休みでした。呉高専のように試験後授業を続けるよりは、このほうが良いと思います。



イギリス在外研究について

建築学分野 下倉 玲子

平成24年度の1年間、イギリスのシェフィールド大学に客員研究員として派遣されていました。シェフィールドは名前から連想される通り丘に囲まれた町で、私のいた14階のオフィスからの美しい緑の景色は、パソコンで疲れた目を休めるのに役立ちました。

シェフィールド大学建築学科の学生たちは、学ぶことにとても積極的で、先生からだけでなく、学生から活発な意見交換が授業で行われていました。下の写真は、乗り物のシェルターを設計する前に、学生たちがボートや自転車などを実寸で表現した絵や工作です。



研究活動としては、学校ICT化の状況を見て回りました。イギリスでは、幼稚園から高校まで下の写真のようなインタラクティブボードと呼ばれる電子黒板をどの教室にも設置されているのが当たり前となっています。



その他、パソコンやタブレット型パソコンも活用された授業が行われ、その場所の使い方を研究しました。

はじめての海外生活で、最初は一步一步がゆっくりでしたが、ユーモアたっぷりのイギリス人に親切にして頂き、研究活動も軌道に乗り、クリスマス等の行事もイギリス式で満喫してきました。

おもしろ科学体験フェスティバル in 福山

教務主事補 井上 浩孝



6月30日(日)10時から16時まで、イトーヨーカドー福山店・天満屋ポートプラザ店「ポートモール」にて、昨年に引き続き、おもしろ科学体験フェスティバル in 福山を呉高専、広島商船高専、米子高専の高専合同で盛大に開催しました。

呉高専ロボコン部が4年前に全国大会に出場し、準優勝したロボット「かめさんロボ」や3年前に全国大会に出場し、スピードと馬力を兼ね備えた名馬「アーリーヴェ」、部内ロボコンで製作した対戦型ロボットの操作・試乗体験や、呉高専の説明ブースと水素水でレモンの香りを抽出する実験ブース、広島商船高専のものづくりと科学のブース、米子高専の建築学科のブースで盛大なイベントとなりました。多くの家族連れのみなさまに足をとめて頂き、ロボットの操作・試乗体験や各ブースでの工作や実験を体験することで楽しんで頂きました。

梅雨の時期でもあり、雨が心配されましたが、天気はくもりでした。天気にも支えられ、多くのみなさまがポートモールにおみえになり、多くの方々に高専の技術教育の一端をご覧いただき、工作を通して実際に体験していただきました。家族連れのみなさまの満面の笑顔に、イベントを実施した私たちも癒されました。



学校見学会

教務主事補 林 和彦

8月4日(日)、学校見学会が本校で開催され、合計615名の方にご参加いただきました。



全体説明会

全体説明会では、森野校長のあいさつに続いて、森脇教務主事より本校の全体説明がありました。

その後、希望者にはキャンパスツアーに参加していただき、機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科の4つの棟を巡回して、各学科の展示物や実験・実習の施設を見学していただきました。

全体説明会は、午前中3回に分けて実施しましたが、210名収容の視聴覚教室がいつもほぼ満席になる盛況ぶりでした。

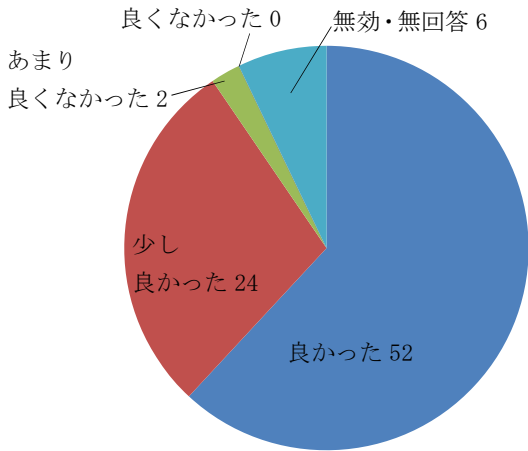
その他、全クラブが一堂に会して行ったパネルによる「クラブ紹介」、来年から一新される「制服の展示」、「KNCTショールーム」、電子工作&手芸を楽しみながら本校の女子学生とお話ができる「女子中学生何でも相談室」なども多くの方に見ていただきました。来校された方々に、呉高専のことを少しでも知っていただけるように、企画を年々工夫しながら学校見学会に取り組んでいます。

第2回学校見学会を高専祭が開催される11月2日(土)に開催します。学生達主体の盛大な高専祭を体感していただき、学校の雰囲気を感じていただきたいと思います。

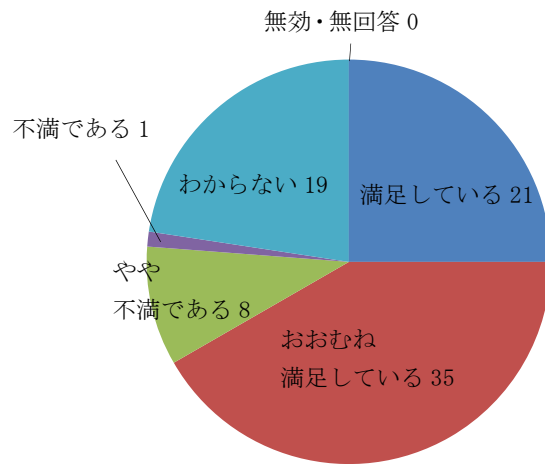
最後に、暑い中、学校見学会にご参加いただきましたみなさまには厚くお礼を申し上げます。また、本校の応援学生のみなさんに感謝いたします。

公開授業アンケート結果（5月9日（木）実施）

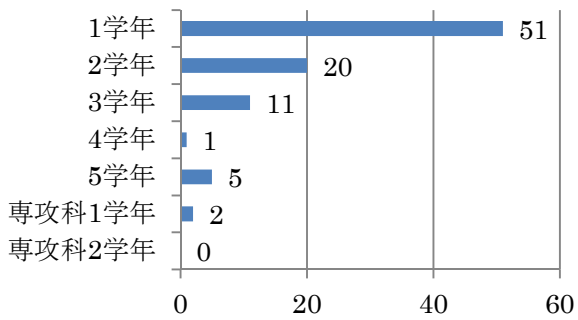
(1) 本日の公開授業はいかがでしたか？



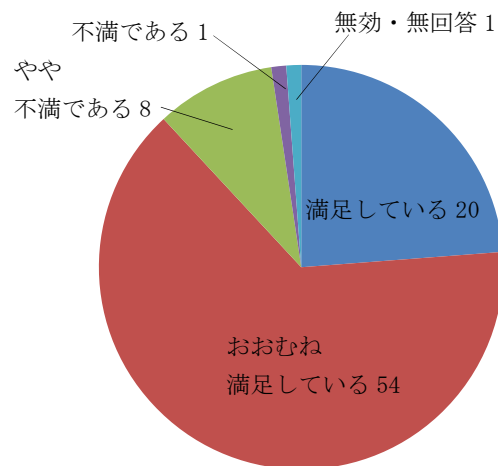
(5) 学生への学習指導について



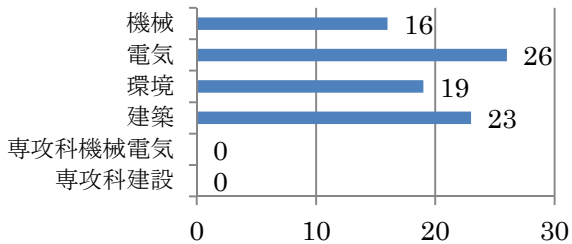
(2) お子様の学年をお答え下さい。(複数回答可)



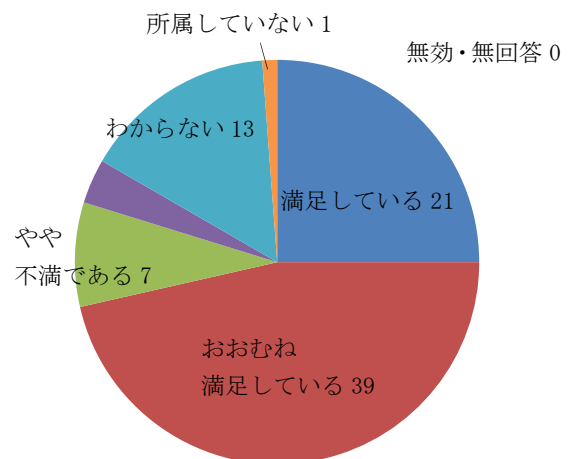
(6) 学生への生活指導のあり方について



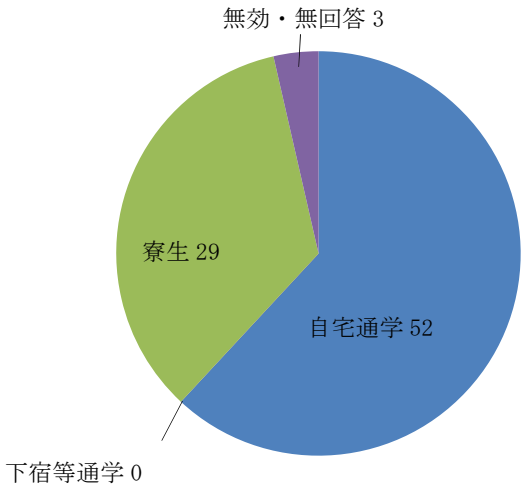
(3) お子様の所属学科は？(複数回答)



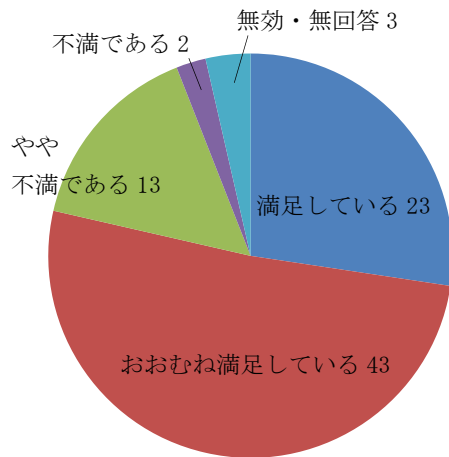
(7) 課外活動の指導のあり方



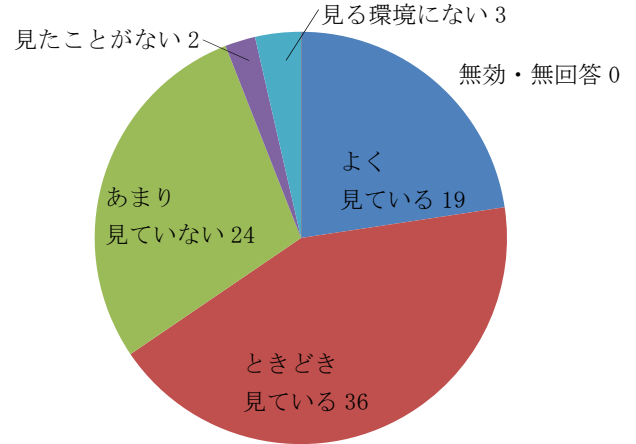
(4) お子様は通学生ですか？寮生ですか？



(8) 保護者の皆様と学校との連携について



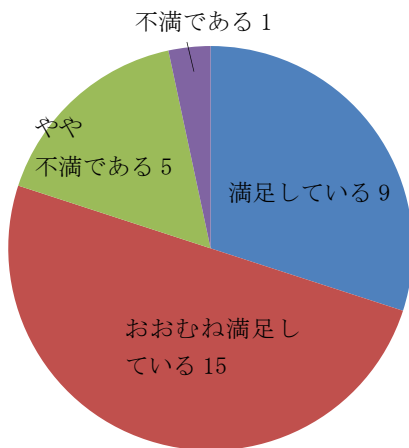
(11) 呉高専のHPをご覧になっていますか？



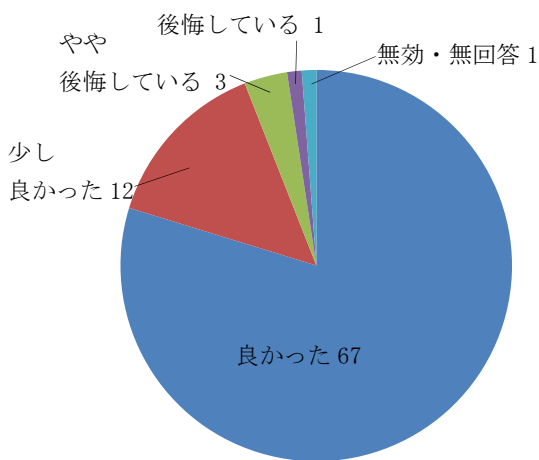
安全標語受賞者の表彰式

総務課庶務室人事係長 鳥山 剛

(9) お子様の寮生活について



(10) お子様を呉高専へ入学させてよかった？



平成25年7月4日（木）、平成25年度安全標語受賞者の表彰式を校長室で執り行いました。

安全標語は、安全衛生に対する意識向上を図ることを目的として、安全衛生委員会が毎年4年生の学生を対象に募集しているものです。

今年度は、143件の応募があり、安全衛生委員会委員の投票により選考した結果、以下の4名の学生を表彰しました。

表彰式では、愛場安全衛生委員会委員長、森脇教務主事、横瀬准教授及び野村准教授の立会いの下、森野校長から受賞者4名の学生に対して、賞状が贈られました。

各受賞者

【1位】

美しく 整理整頓 事故予防

(平成25年度 安全標語)

電気情報工学科 4年生 園部 雄希さん

【2位】

片づけは 次の人への 思いやり

機械工学科 4年生 小川 将大さん

【3位（得票同数）】

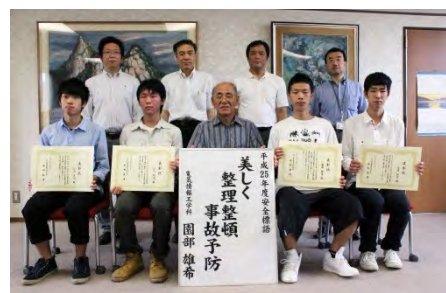
見落とした 小さな危険が 大事故に

機械工学科 4年生 大坪 拓矢さん

【3位（得票同数）】

慣れ手抜き 油断過信が 事故を呼ぶ

電気情報工学科 4年生 川元 洋介さん

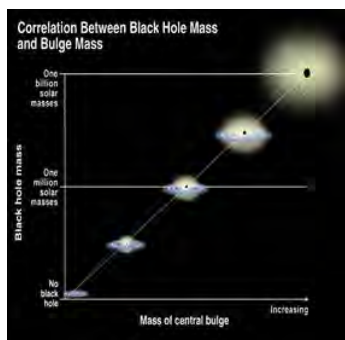


研究の楽しさを体験しよう！

自然科学系分野 川勝 望

平成25年4月1日付で数学の教員として着任しました川勝望（かわかつ のぞむ）です。簡単な自己紹介は、高専日誌の方でさせていただきましたので、今回は研究について紹介したいと思います。

私は宇宙で起こっている様々な現象に興味があり、特に超巨大ブラックホールの形成について研究しています。皆さんは、「ブラックホール」に対してどのようなイメージ・疑問を抱いているのでしょうか？これまでの研究から、ブラックホールには、質量が太陽の数10倍くらいの「星質量ブラックホール」と、太陽の数億倍もある「超巨大ブラックホール」の2種類存在することがわかってきました。では、2種類のブラックホールはそれぞれどのようにできたのでしょうか？「星質量ブラックホール」については、比較的良好に分かっており、太陽質量の数10倍以上の重い星の最期に作られると考えられています。では、「超巨大ブラックホール」についてはどうでしょうか。



残念ながら、研究者はいまだ明確な答えを持っていません。しかし、最近、超巨大ブラックホールが、それを取り囲む銀河と共に進化しているという興味深い事実

（左図）が見つかりました。

この発見をきっかけに、謎に包まれた超巨大ブラックホール形成の手がかりが得られるかも知れず、現在、世界的に多くの研究者が興味を持っています。私も自身のオリジナルなアイデアで、この問題に取り組んでいます。

研究とは、勉強とは異なり、答えの分かっていない問題にチャレンジするため、なかなか成果が得られずに辛いことも多いです。一方で、面白い結果が得られた瞬間は、今までの苦労が全て吹き飛びます。だから、研究はやめられないのです。勉強が大事なのは言うまでもありませんが、それと同時に自分の興味や関心があることについて自主的に調べる習慣を少しずつ身につけて欲しいと思います。多くの学生は、卒業研究で初めて研究をすることになると思いますが、ぜひ研究の醍醐味を若いうちから味わってください。

最後に、研究者に限らず、社会に出て企画を立てるときには参考になると思いますので、大学院時代に尊敬する先輩から頂いたアドバイスを紹介し、本稿を閉じたいと思います。～全ての研究がモノになるかやってみないと分からない。つねに10個（少なくとも3つ）くらいのネタを用意しておくといい～

就任にあたって

機械工学分野 西坂 強

平成25年4月から機械工学分野教授に着任致しました西坂強です。材料設計と製造工程設計を主軸にもものづくりの面白さを学生と一緒に取り組んで行きたいと考えています。



専門は金属材料・表面処理で、特に材料への機能特性向上の研究を進めています。着任までは企業で研究開発から新規立上・事業化までを幸いにも経験させて頂き、その上で人材の大切さを痛感していました。人材の育成は、その場その場で教育に関わった人のカラーが相手（子供・学生・社員・隣人等）の心に伝わるころから始まると思っています。

呉高専では、材料学および機械設計関係を担当していますので、材料の楽しさを基礎知識と応用技術（実際事例）の両面から学生に伝えられる授業にしたいと思っています。また、クラブ顧問はサッカー部を担当していますので、厳しい練習を微笑みながら実行できる雰囲気を取り組みをしたいと考えています。年齢が高くなりましたが、まだグラウンドに立てる体力が少し残っていますので、率先垂範で高専生カラーが生かせるチーム作りをしたいと思っています。着任して4カ月が過ぎ、学生達の名前・顔そして個性が一致すようになってきていますので、今後は学生達に自らの長所を伸ばし、自己矯正できる人材育成を学生と向き合いながら進めたいと考えています。

大変微力ですが、企業・地域社会との経験を生かし学生達が社会人として巣立って行ける準備支援を全力で行いたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。

就任にあたって

機械工学分野 尾川 茂



平成 25 年 4 月 1 日付けで呉高専に着任した機械工学分野・教授の尾川茂です。

私は、津山高専を卒業し、広島大学 2 年次

に編入し、学部生活 3 年間と博士課程 5 年間を過ごしました。

大学院では瀬戸内海の潮の流れの数値解析と、汚染物質の拡散現象がテーマでした。しかし、博士課程後期の 3 年間は苦勞しました。工学部が東広島西条キャンパスへの移転と重なったからです。今から 30 年前、研究室の学生は私一人でした。教授・助教授・助手 2 名の先生 4 人の講座だったので、先生にはよく面倒を見て頂きましたが、働き手の学生は 3 年間私一人でしたので、朝早くから夜遅くまで研究室の水槽や風洞などの実験設備類の分解・組み立てに追われました。実験棟は 1 つで大きな建屋の中は何もなく、不便なので中二階を造りました。鉄骨を溶接して床を造り、パーティションで仕切り部屋を造り、劇的大改造でした。

ということで、3 年間の博士課程は本来の研究に専念できる十分な環境ではなく、単位取得後、残念ながら博士の学位をとれないまま、企業に就職しました。進路を決めるにあたり、大学での研究生生活と企業への就職の選択に悩みましたが、一度世間に出てモノ造りに携わることを経験した方がいいのではとの思いに至り、自動車メーカーのマツダ（株）に就職しました。

当時のマツダは風のカペラが好評で、空気抵抗の大きさを示す指標である C d 値が如何に小さいかをメーカー各社が競う C d 競争時代でした。就職面接の際には、「C d はいくらまで落とせるか、また研究と仕事のバランスを上手くとれるか」との質問があったのを今でも覚えています。

85 年に入社し空力実研課に配属されました

が、空気抵抗低減の仕事ではなく、風騒音低減の開発担当でした。空気抵抗という流体力学が直接関係する業務と異なり、流れによる音の発生という、むしろ流れの副産物としての音の発生を新たに研究し、お客様に静粛な快適空間を提供することが私の業務でした。当時、技術開発と商品開発の両方を担当して、担当車種はスポーツカーから乗用車に至る全車種で、技術開発 20%と商品開発 80%の割合でした。仕事はハードでしたが、商品開発の合間に研究成果を論文としてまとめ約 50 編を執筆しました。休日はデータ整理と論文の執筆に追われましたが、海外での学会発表も数多く経験できました。

そのお蔭で、コースドクターではなく論文博士として東京大学から博士(工学)号を頂きました。時は企業に就職して 10 年が経過した、1995 年の 4 月でした。夢の実現です。

その後、衝突安全開発に転籍し、衝突しても世界一安全な車の開発造りに専念しました。技術開発に取組み、最近発表した C X-5 やアテンザの車体骨格ボデーは、衝突安全の原点に立ち返り衝突エネルギーの吸収と分散の考え方の魂が入った自信作です。

マツダに就職して 28 年間。研究・開発の分野を中心にモノ造りの面白さと難しさ、そして同時にグローバル化時代の中で日本のモノ造りが直面する課題を考えさせられた時間でもありました。

大学・企業を卒業してそして今、高専に入学。国際交流室員として、呉高専生には卒業までに一度は海外に出て、激変する世界を体感する経験を積んで欲しいと願っています。

呉高専生の一人ひとりが、「モノ造りの中核エンジニアとしての技術の基本を身に着け、各自の夢の実現に向かって目を輝かせている姿」が私の成功した状態です。一人ひとりの夢の実現に向け全力で応援していきます。

どうか、未知への挑戦という大志を抱き、モノ造りの領域で世界に羽ばたいてくれることを、強く願っています。

母校で始める新しい生活

環境都市工学分野 谷川 大輔

はじめまして、今年の4月より、本校環境都市工学科の助教に就任致しました谷川と申します。私自身、8年前に本校の専攻科を修了しており、人生を半分戻ると本校の1年生です。何とも不思議な気持ちになります。

呉高専から始まる私の半生を振り返ると、呉高専（本科、専攻科）→長岡技大（大学院修士課程）→大阪（民間企業）→マレーシア（海外での研究プロジェクト）→長岡技大時々ベトナム（大学院博士課程）→呉高専（教員）と、かなり特殊な経路を辿りながらも、最終的には母校である本校に戻って来ました。高専生時代の私には、予想すらしなかった人生を歩んでいます。呉高専での7年間は、私にとっての大きな人生の転機であったことは間違いありません。ある意味で、私自身の経験から、呉高専卒業後の進路の可能性の広さを示せたのではないかと思う次第です。

専門は、環境工学であり、主に発展途上国等に適用可能な低コスト型の廃水・廃棄物処理システムの開発に関する研究を行っています。実際にマレーシアやベトナムの現地での環境汚染の実態や、現地で求められている環境技術等、実体験も授業等に取り入れながら、学生達に環境というものに興味を持ってもらいたいと考えています。また、本校の学生であった経験も活かし、学生の気持ちを理解出来る良き先輩でもありたいと思います。

これからの社会で求められる世界に通じる技術者の育成、そして学生達が誇りに思える呉高専を作り上げていける様、精一杯の尽力をさせていただきます。



マレーシアのヒन्दゥー教聖地にて

学生寮へのエアコン設置

寮務主事 高津 康幸

昨年9月に開催しました学生寮保護者連絡会臨時総会で学生寮へのエアコン設置が承認され、寮生待望のエアコンが今年7月から稼働しています。今年は猛暑でしたので、熱帯夜の熱中症予防にエアコンは大きく貢献したのではないかと思います。

エアコンの運用などの管理に関しては、学生寮保護者連絡会から委任され、寮関係教職員がお手伝いしています。運用1年目で一番気掛かりなのは、ランニングコスト（電気代）です。学生寮で契約して電力は業務用TOUというものです。業務用TOUは、昼間は割高ですが夜間・休日は割安のため、昼間は誰もいなくなる学生寮の運営形態に合致します。ただし、業務用電力ではピーク電力に応じた基本料金を支払わなければならないことが、一般家庭用とは大きく異なります。1kWあたり1,654円ですので、ピーク電力が20kW上昇すれば、年間の出費が約40万円増えることになります。20kWという値はあまりピンとこないかもしれませんが、人体の発熱量を80Wで見積もれば、全寮生（約250名）の発熱量は20kWとなります。

エアコンの設定温度は、冷房26℃以上、暖房22℃以下で集中制御していますが、ピーク電力は外気温に大きく影響されません。現在までのピーク電力は閉寮前日(8/9)に発生し、当初の想定より幾分低く抑えられました。しかし、ピーク電力は冬季に発生しますので、今年は暖冬であればと願うばかりです。

かなり前に室温と湿度を精密に制御して温冷感の実験をしたことがありますが、人の温冷感は甚だ曖昧であるという印象が強く残っています。「心頭を滅却すれば火もまた涼し」という言葉もあるように、温冷感は心理的要因にも左右されますので、万人が快適となる温熱環境を提供することはかなり難しいように思われます。

著書、まもなく25冊を刊行

人文社会系分野 外村 彰



呉高専に来て3年ほどの間に、著書『岡本かの子短歌と小説—主我と没我と—』（おうふう）、『犀星文学 いのちの呼応—庭といきもの—』（鼎書房）、編著『外地の人々』『もくはんのうた 高橋輝雄作

品集』『多喜さん詩集』（龜鳴屋）、『コレクション・都市モダニズム詩誌24 京都のモダニズムⅠ』（ゆまに書房）、共編著『大野新全詩集』（砂子屋書房）、『芥川と犀星』『太宰とかの子』（おうふう）と、9冊を刊行致しました。

著書の2冊は論文を集めた研究書です。編著は個人で編んだ作品集で、共編著も『大野新全詩集』以外は自ら企画監修をしています。今年度内に編著『庭柯のうぐひす 高祖保随筆集』（龜鳴屋）、共編著『近代童話と賢治』（おうふう）を刊行するので、私の本は計25冊となりますが、半数近くが呉に住んでからの出刊です。それらのほか、単行本に分担執筆をした「共著」なら、別に29冊あります（ちなみに、単独執筆した雑誌掲載論文なら40、書誌が22、エッセイその他も37を数えます）。

私は現在49歳ですが、同世代で同数の本を出している人は稀だそうです。近年の出版不況のご時世に、どうしてそんなに刊行出来たのでしょうか。それには色々な巡り合わせが考えられますが、おそらく今が研究者として成果をまとめるピークの時期にあるからだろうと思います。

私の専門は日本の近代文学で、1910年頃から1970年頃の小説や詩歌俳句を研究しています。その研究で博士号を得た岡本かの子の本が5冊ありますが、近年は室生犀星にメインが移って来て、2冊目を昨秋にまとめました。一方で文学と風土、とりわけ地元の滋賀ゆかりの文学者についての本も多く作って来ました。たとえば井上多喜三郎と高祖保という詩人の本が各々3冊あるように。

研究者になったのには、あるきっかけがあります。それは、かつて滋賀県の高専で先生をしていた頃、県内の国語教師たちで作成した副教材『近江の文学』の編集委員になったことでした。この仕事で自信をつけ、無謀にも教諭をやめて大学院に入ったのです。院生在

籍中に書誌を刊行し、院を出た年に『滋賀近代文学事典』の編集委員に推薦されたことが、自分の研究の幅を広げる機縁となったのでした。

この事典の調査執筆をもとに詩人の評伝、全集をつくったことから、したしくなった金沢の出版社が利益を度外視して、私の本を刊行して下さるようになりました。龜鳴屋というプライベート・プレスなのですが、ありがたいことに年明けには9冊目が発行されます。

大学院を出る時期に『滋賀近代文学事典』の編集委員になったこと、そこから派生した仕事を認めてくれた人が、売れそうもない本でも刊行されるようになったこと等を思いめぐらすと、おのずと「縁」というものの不思議さに心うたれます。

思えば長い道のりでした。中学校二年の秋に文学と出会って以来、ずっとその道から外れずに生きてきました。人に語れぬ艱難辛苦もあります。でも没頭はしてきました。文学研究は私にとって、格好つけて記せば、仕事というより生きる情熱、生きた証なのです。ものを調べ、書いている最中に、目に見えない力の導き、遠くから使命を託されたような感覚、時に何者かが憑依するような情態を、何度も経験しています。

呉高専に在ると、文学で卒業研究をする学生がいないので、正直ものたりない気分です。しかし元来高校教師だったので、さもあらばあれ、元気な先生を演じながら、時間をみて集中的に（時に飲み会から帰った後にも）、文学的営為を続けている今日この頃です。私はもともと文学・芸術が好きです。強制されるのは苦手ですが、損得抜きで好きなことなら、自発的に続けられるものです。一つのことをひたむきに続ければ、きっと自分なりに納得できる成果が生まれ、きっと良い人や、よい機会と巡りあい、人生が充実するものだ——そう実感しています。



刊行した本

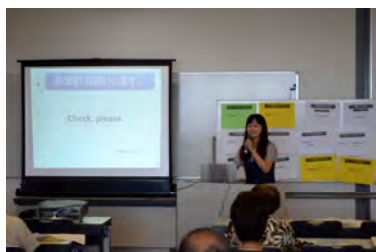
市民セミナー

海外旅行で役立つ英語～これだけは知っておきたい～

人文社会系分野 上杉 裕子

7月13日(土)、大和ミュージアム講義室にて「海外旅行で役立つ英語～これだけは知っておきたい～」と題して公開講座を行いました。定員が30名のところ、なんと定員を超える35名の方から申し込み頂きました。

年齢層は12歳から77歳という幅広さ。海外旅行で役立つ英語を学びたいという情熱に燃えた方々が来られるのだと思い、期待に応えなくてはと1か月前前からパワーポイントの準備を始め、さらにお土産としてオリジナルプレゼント「役立つ英単語・表現集」を準備していました。参加者の人に「来て良かった」と喜んで帰っていただけるようにという願いを込めて。



講座が始まるや否や、私は受講生の人たちの熱意に驚かされました。まずは反応がすごい。こちらが問いかけたら即座に反応してくださり、発音練習の際にも大きな声でリピートしてくださるではありませんか！最初の緊張がほぐれ、自然に私もノリノリになっていきました。

合計98ページのパワーポイントには幅広い年齢層の受講者を飽きさせないよう、疲れさせないよう、また何よりも楽しんでいただけるよう、BGMや効果音をちりばめており、これがまたウケました！反応のいい、心優しい受講生の皆さんに恵まれたおかげです！皆さんと共に、私自身もとても楽しみながら進めることができました。

講座内容のメニューは以下の通り。

- 1 (私が選んだ) 10のサバイバルイングリッシュ
- 2 場面ごとに役立つ英会話
＜1 空港にて、2 買い物、3 外食＞
(途中で抜き打ちミニテストコーナーあり)
- 3 練習タイム&ショータイム (英会話全部で14)
*抽選で当たったペアに実践会話を披露していただきました。
- 4 豆知識 (値切り方、ホテルの部屋を上層階に変更してもらう裏ワザ(?!))

あつという間の90分が終わり、アンケートを書いていた後、皆さんが講義室から出られる際、入口に立っておりましたら、列ができるくらい、たくさんの方が私に話しかけて下さるではありませんか。これは「成功」に終わったかなと内心ほっとしました。

「ほかに英会話を教えておられないのですか?」「また来年も来ます!」「楽しかったです!」「高専生がうらやましい!」となんと素敵なお言葉をいただいたことか!皆さんに笑顔で挨拶をしていただき、私も幸せな気持ちで胸がいっぱいになりました。

後でアンケートを読ませていただきました。アンケートに書かれていた言葉を抜粋しますと、「基本会話、旅行に必要な表現などをとても楽しく学ぶことができた」「使えるフレーズをたくさん知ることができた」「もっと講義の回数を増やしてほしい」「本日のセミナーがとても良かったので毎月/毎週でもして欲しい」「わかりやすく実践的だった」「この素晴らしい先生に今後も習いたい」「非常に役に立った」「頭の体操になった」「ぜひまた受講したい」「もっと旅行の話が聞きたい」「90分盛りだくさんだった。復習がいっぱい必要」「音楽があつてすごく良かった」「次回も同じような内容で教えてほしい」「指導法がうまい!」「アメリカの大学や生活の話を知りたい」「もっと長い時間学習したかった」という非常に嬉しい励みになるお言葉の数々。胸にしみて涙がこみあげてきました。まさに講師冥利に尽きるお言葉をたくさん頂戴いたしました。早くも次の公開講座を開きたいという意欲に燃えている私です。(単純かしら?!)ぜひまた多くの方に受講していただくと嬉しいです。

さて次の講座は専門の詩人Sylvia Plathの詩を味わう講座を考えてはいますが、もちろん今回の皆さんからの「基本会話や旅行に役立つ英会話をもっと学びたい」というご要望にもお応えしたいと思っております。ではどちらの講座を開講すべきなのか?!できればどちらも開講したいと思っております。〇〇もおだてりや木に登ります。ということで、次の公開講座に向けて頑張るぞ～。



市民セミナー「地形模型を作ってみよう」

環境都市工学分野 河村 進一

小中学生の夏休み初日 7月20日に呉高専市民セミナー「地形模型をつくってみよう」を実施しました。参加者は小中学生計13人でした。

まず、「地形と地図」について地図の読み方など1時間程度講義をした後に、「地図から立体模型をつくる」実習を行いました。A4サイズの地図の等高線に色付けして、発泡スチロール板に貼り付けて地図の等高線に合わせて発泡スチロール板をカッターで切っていきます。それを積み重ねていくと立体地形模型が出来上がります。

今年は、野呂山、休山、宮島さらに世界遺産登録で話題の富士山の4種類の地形模型にチャレンジしました。発泡スチロールをきれいに切るのは意外と難しいのですが、アシスタントの高専生と一緒に何とか全員が地形模型を作り終えました。

普通の平面の地図や写真だけでは、地形の変化がわかりにくいですが、立体模型をつくることで色々なことがわかってきます。夏休みの宿題としてこの模型を提出するのも良いですが、これを使って地域の地形の特徴を考えるきっかけになればさらに良いと思います。



新しい国際交流パーティーの幕開け

—前へ歩み出した国際交流室の証し—

国際交流室長 竹内 準一

■国際交流室の3年間

国際交流室長に就任して、かれこれ3年目を迎えました。自動車を運転する人なら想像できると思いますが、ゼロから発進するのはエネルギーが要ります。それがぬかるみからだったら、なお更です。脱出するには誰かに牽引してもらわなければ無理です。

窮地で手を貸してくれたのは、地元・呉東ロータリークラブの大連交流だったと感謝しています。

しかし、昨年度は国際交流室の体制も整っておらず、家内制手工業の域を出ず正直、私と上田先生とで力任せに回っていたのが真相です。それは昨年度、着任したての森野校長の目にも明らかに、そう映っていたと思います。

今年度、森野校長の計らいで国際交流室は各学科から実質、人員を出し、英語科からも2名が加わる新体制へ移行しました。企画係もバックアップ体制をとって戴ける組織へと大きく生まれ変わることができました。この3年間で振り返ると、隔世の感があります。

■新しく衣替えしたパーティー

国際交流室の体制作りに関連して、恒例の国際交流パーティーも進化を遂げました。

それまで本校の留学生を世話していただく里親会に対する返礼として開催されてきた旧称・留学生交流パーティーが国際交流室の本格始動とともに国際交流パーティーと名を変えてきました。しかし、今年、名称が変わった以上の変革点を迎える結果になりました。



尾川先生の司会進行による学生会の催し

室員が増強されたことにより、アイデアの多様性や割ける作業量に幅が増えました。従来の外会場を借りて開催するスタイルからオードブルや飲み物を調達して学内で開催するスタイルへ変更したことにより大幅に本校の学生の参加者を増やす効果がありました。

会場の設営が大変かと心配したのですが、教職員が会議室の椅子をゴロゴロ動かす様子を見て、学生たちが「何これ、面白そう。」と自主的に後片付けを手伝ってくれたのです。

結果的に、食事や飲み物も余るほどでしたので、来年はさらに学生参加者を増やすこともできるものと期待しています。尾川先生の企画と巧みな司会進行で、新しい時代の国際交流の幕開けが告げられました。

結果的に、食事や飲み物も余るほどでしたので、来年はさらに学生参加者を増やすこともできるものと期待しています。尾川先生の企画と巧みな司会進行で、新しい時代の国際交流の幕開けが告げられました。



全員集合して記念の写真撮影

北米地域との青少年交流事業

国際交流室 加納 誠二

7月12日(金)、アメリカ合衆国イリノイ州シカゴ市のWhitney Young Magnet 高校(以下ウィットニーヤング高校)の生徒21名と教員4名が、外務省の北米地域との青少年交流事業(KAKEHASHI Project -The Bridge for Tomorrow)として本校を訪問し、2泊3日のホームステイを行いました。ウィットニーヤング高校は、ミシェル・オバマ米国大統領夫人の母校で、シカゴでもトップクラスの優秀な公立高校です。

このプログラムに先立ち、国際交流ボランティアを募集したところ、50名を超える学生が登録してくれました。これに加え、HMCでの研修事業参加者、大連大学との交流事業参加者、英語コミュニケーション受講生、国際交流部学生など多くの学生が参加し、当日留学生の案内係をしたり、交流会で日本文化を紹介したりしてくれました。

留学生たちは、本科1～3年生の全クラスに分かれ、本校学生達と一緒に授業を受けたり、昼食を取ったりしていました。



英語の体験授業中の様子

放課後は国際交流会を行い、両校からそれぞれの学校や文化紹介がなされました。文化紹介ではウィットニーヤング高校の生徒による弦楽器4重奏が披露され、本校からは剣道部による演武や茶道の紹介・実演、日本の駄菓子と遊びに関するプレゼンが行われました。

初めてネイティブスピーカーと話すという学生がほとんどでしたが、身振り手振りのボディランゲージを駆使しながら楽しくコミュニケーションを取っていました。

ウィットニーヤング高校の生徒はその後、ホストファミリー宅で13日・14日と過ごし、日本の家庭を体験し、宮島を訪れたり、ショッピングに行ったりとホストファミリーと楽しく過ごしたようです。14日夕方集合場所の呉阪急ホテルに集まった時には、学生全員が英語で話しながら別れを惜しんでいました。中にはホテルに入ってくる前から泣きながら来る学生もあり、短時間であったにもかかわらず内容の濃い交流ができたようでした。

当初初めてのホームステイ事業に不安があったようですが、事業終了後、学生達は口々に「もっと英語を話せるようになりたい」「また機会があったら次回も是非ホストファミリーをしたい」と言っており、大変心強い気がしました。その気持ちを忘れずに、勉強に励み、次回のチャンスまでに少しでも英語能力を上げてくれることを期待しています。

国際交流室ではこれからも学生達の国際化を図るために、海外からの留学生受入や海外への派遣事業など、学生達に国際化の機会を提供するように努力するつもりです。多くの学生が積極的に参加してくれることを期待しています。

最後になりましたが、本事業のチャンスを与えて頂きました外務省や日本国際協力センターの関係各位、事業遂行にご協力頂きました本校教職員、快くホストファミリーを引き受けて頂きました保護者の皆さま、何より国際交流ボランティアとして協力してくれた学生諸君に心より御礼申し上げます。



最後に全員で記念撮影

国際交流ボランティア

建築学科1年 白数 夏生

呉高専には、「国際交流室」という部署がある。自分のように「若い頃から世界を体験しておきたい!」という者からすれば大変有難い存在で、僕はその国際交流ボランティアに登録しているため、この貴重な体験をここに書き綴ることができるに至った。

国際交流ボランティアに登録して早速、ボランティアの仕事が来た。内容は、シカゴのある高校からやって来る、留学生たちの体験授業をサポートせよ、とのこと。僕は受け身ではなく攻勢で交流しないと勿体無いという思いを心に決め、当日に挑んだ。



留学生は1クラス2人で、自分達はネーサンさんとフィオナちゃんの担当だった。フィオナちゃんと席が隣になった僕は、

最初の授業が始まるまでお互いの趣味などについて話した。もちろん僕は英語を話す実力は持ち合わせていないため、知っている簡単な単語を組み合わせるの会話だった。しかし、それだけでも十分で、彼女は僕と同じように運動が苦手で、音楽が大好きな事くらいは容易に理解できた。そしてあちらも、僕はクルマが好きであるということが伝わったようで、前日に訪れたマツダミュージアムの話をしてくれた。また、運が良いことに、その最初の授業というのは芸術である。授業内容は電子辞書や携帯電話の翻訳機能を駆使すれば、簡単に伝えることができた。分かってくれるととても嬉しそうに反応してくれるので、こちらでも伝えることができるのととても嬉しくなった。言葉の壁など感じないに等しかった。

ボランティアと聞くと、我が身を犠牲にといったイメージがあるかもしれないが、これは全く違う。寧ろ得る物しかないくらいだ。今度、僕は大连に留学する機会にも恵まれた。経験こそが人生の礎なのだから、これからも国際交流を通じて多くの経験をしていきたい。



私の新しい友人

建築学科4年 桑田 千愛

我が家に米国シカゴのウィットニーヤング高校からダニエラとジェニファーの二人の学生がホームステイに来ました。

金曜日の夕方、顔を合わせるまではとても緊張しました。顔を合わせてから我が家まで1時間30分のドライブです。

疲れていたら寝てもいいよ。と言いましたが、気になるものが沢山あるようで写真を撮ったり話をしているとすぐに家に着きました。

土曜日は、昼食にそうめんの店に行き本格的なそうめん流しを行いました。二人は意外にも箸を上手に使うので、そうめんの他につまみにくいものを流したりして楽しみながら食べました。そして、日本人でもあまり体験することがないであろう、ちくわ作りとせんべい焼きを体験しました。二人はとても上手に作り、美味しそうに食べていました。帰宅してからは地元の素戔嗚神社祇園祭の太鼓を見に行きました。沢山の提灯や出店、太鼓のパフォーマンスに感動していました。



最終日の日曜日は午前中、町内を神輿が練歩くのに参加させてもらい、2人は法被を着て子供神輿を担いだり、神輿の前で記念撮影をしたり、

祭りを楽しんでいました。町内の方々も温かく受け入れてくださり、二人とジェスチャーを交えながら会話をしていました。午後から呉に戻り国際交流に興味のある同じクラスの友人と一緒にカラオケに行きました。みんなで英語の歌を歌ったり、また2人は日本語の歌がとても上手で驚きました。楽しかった時間はあっという間に過ぎてすぐにお別れの時間になりました。握手をして、ハグをしてみんなで写真を撮って必ずメールをする約束をして別れました。

このホームステイを受け入れて逆に日本について深く考えるようになり、また2人に日本のことを教えるだけでなく逆に英語を教えられるようになりました。



今回のホームステイで、かけがえのない友人を持つことができるととても嬉しく、大変意義ある国際交流をすることが出来ました。

親心に国境は無し

里親会代表 海生 郁子

現在、呉高専には、マレーシア、ラオス、モンゴルからの留学生4名が在籍しており、呉在住の15家族で、4月の歓迎会、3月の卒業パーティを含め、年に7～8回、文化体験、スポーツ観戦、行楽などの行事を楽しみながら、交流を深め、支援をしています。

発足から18年目となりましたので、卒業生が、伴侶や子どもを伴って、里帰りをしてくれることも度々あり、その都度、会員家族で集まっては、懐かしい思い出話に花を咲かせています。呉の里親会の事をずっと覚えてくれていることに胸が熱くなります。

中でも、留学生が、ご両親と呉の地を再訪してくれる時は、本当に嬉しく思います。全く日本語を話されない留学生の親御さんですが、会った瞬間、「子どもの事を見守って下さって有り難う。これからも宜しく。」というお気持ちが強く伝わってくるのが不思議です。

私達自身、親離れをしていく年頃の子を持つ親として、遠く離れて勉学に励む子どもをどれほど気にかけていらっしゃることか共感できます。自分達の子どもが、文化も生活環境も異なる地でも、回りの人から愛され、夢を叶えて欲しいと思わぬ親はありません。

子どもの幸せを願う親の気持ちに国境なんてないことを強く感じます。言葉は通じなくても、若者が大きな夢を持てる社会を共に築いていけるように手を取り合いたいものです



卒業生の家族との一時

弱点を知っておくことの利点

学生相談室長 岩城 裕之

この前期は例年になく相談件数が多かった。昨年からは皆さんにとって呉高専が「生き辛い」学校になってしまったのか、それとも、相談する力がついてきたのか。前者なら「ゆゆしきこと」で、後者なら歓迎すべきことである。さて、どうなのでしょう？

カウンセラーさんを紹介したり、相談を受けたりしながら思うのは、努力だけではどうにもならないことがあるということ。最近では精神医学の成果もあって、「提出物が出せない（提出物があったことをよく忘れる、完璧に仕上げないと出せないと思う、など）」「昼夜逆転する（ゲームが止められない、眠っているはずなのにいつも眠い、など）」「ミスが多い（集中力が続かない、気が散りやすい、忘れ物が多い、など）」は、頑張るだけでは克服が難しいケースがあることがわかってきた。昔の感覚であれば「本人がしっかりしていなかったからだ」ということで済ませてしまいがちだが、実はそうではないという。ちょうど、根性をつけるために「部活中は水を飲ませない」と言っていたのが一転、生命に危険があることがわかってきて「水を定期的に飲むように」と変わったことに似ている。このほかにも昔と今とで変わったことはたくさんあるが、要するに医学ほど変化の激しい世界はないのだ。ということは、うまくいかない原因は、血圧や脳の問題だったというケースがあるということだ。

では、それがわかったら、どうすればよいのだろうか？ 1つめは適切な投薬を受ける（薬を飲む）、2つめは病気と上手につき合うこと。とくに2つ目は病気だけでなく重要なことだ。自分の弱点を知り、どうなると「やばいか」を知り（限界を知り）、そうならないような工夫をさがし、実行する。そして、無理なら相談する。この知恵があれば、おそらくどこでもやっていけるだろう。

弱点とうまくつき合って、少しでも生きやすくなると良いですね・・・

第49回中国地区高等専門学校体育大会成績

期日 7月5日(金)～7月7日(日)

会場 松江・米子

【団体戦】

種目		順位							
		優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
陸上競技		松江	徳山	呉	津山	米子	宇部	大島	広島
バレーボール男子		松江	徳山	津山 宇部					
バレーボール女子		松江	米子	宇部 大島					
柔道		松江	徳山	広島					
硬式野球		徳山	津山	大島 米子					
テニス		徳山	津山	呉 宇部					
バスケットボール男子		松江	米子	大島					
バスケットボール女子		松江	徳山	宇部					
剣道		大島	広島	松江	津山	米子	呉	宇部	徳山
サッカー	A	大島	徳山	米子 広島					
	B	宇部	松江	津山 呉					
バドミントン		徳山	松江	米子 津山					
ソフトテニス		松江	徳山	呉					
卓球		米子	広島	徳山 宇部					
水泳		松江	大島	宇部	米子	広島	徳山	津山	呉
ハンドボール		徳山	米子	宇部 津山					

注) 太枠線は団体戦全国大会出場予定校

団体種目のない陸上競技、水泳競技については総合順位とする。

【個人戦（全国大会出場予定者）】

陸上競技

【男子】

800m	2位	C 4	八山 亮太
	3位	A 1	松本 紘幸
5000m	3位	E 4	松本 直樹
走高跳	1位	M 4	中村 和真
走幅跳	3位	C 4	薙野 智弥
三段跳	1位	C 4	薙野 智弥
円盤投	1位	E 2	栗栖 裕紀
	2位	C 3	山中 勇人



剣道

【男子】

個人	2位	M 4	佐藤 大志
----	----	-----	-------

【女子】

個人	1位	A 2	吉本 菜那
----	----	-----	-------



ソフトテニス

【男子】

ダブルス	1位	A 5	森川 翔平
		M 5	森上 祥伍
	3位	C 3	磯本 侑真
		A 2	山本 拓実

【女子】

ダブルス	1位	A 2	矢野 明日香
		A 2	矢野 遥香



安全・安心な食堂運営について

西洋フード・コンパスグループ株式会社

呉高専（寮食堂・学生食堂・売店）

店長 辻 操

食堂・売店の運営をさせていただいております「西洋フード・コンパスグループ株式会社」と申します。

学校給食はもちろんオフィス・病院・工場等のフードサービスやレストラン運営をさせていただいている総合外食企業です。

『安全・安心だから一層おいしい！』
これが私たちのモットーです。

本当に信頼のおける料理を提供させていただくために、安全な食品・食材の調達や衛生管理に努めております。原産国や生産工程など多項目にわたる安全管理体制チェックで厳選された安全な食品・食材を使用させて頂いております。また、衛生管理についても食材の温度管理から加熱方法・調理器具の消毒など食品衛生管理マニュアルに従い徹底的に行っております。

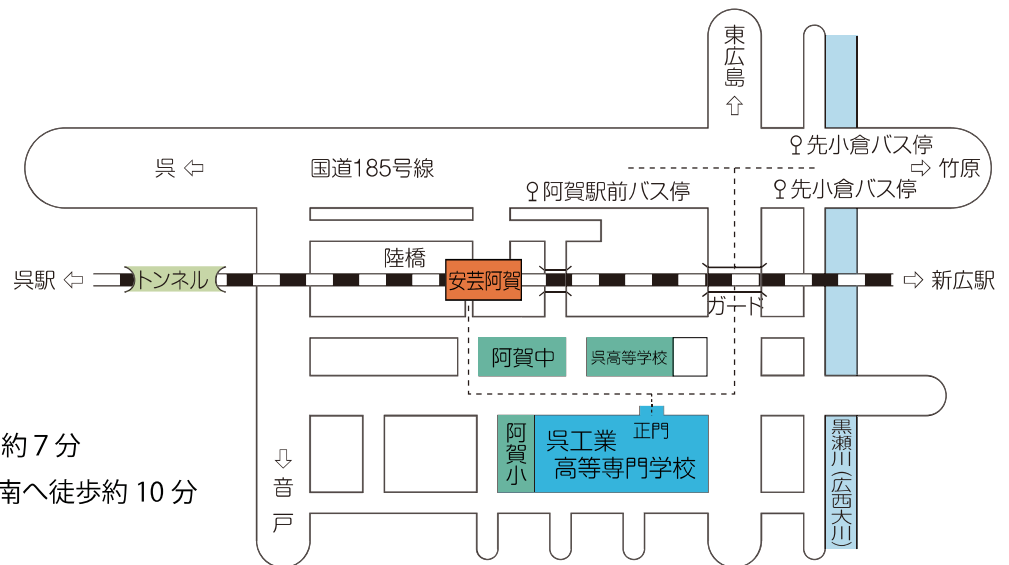
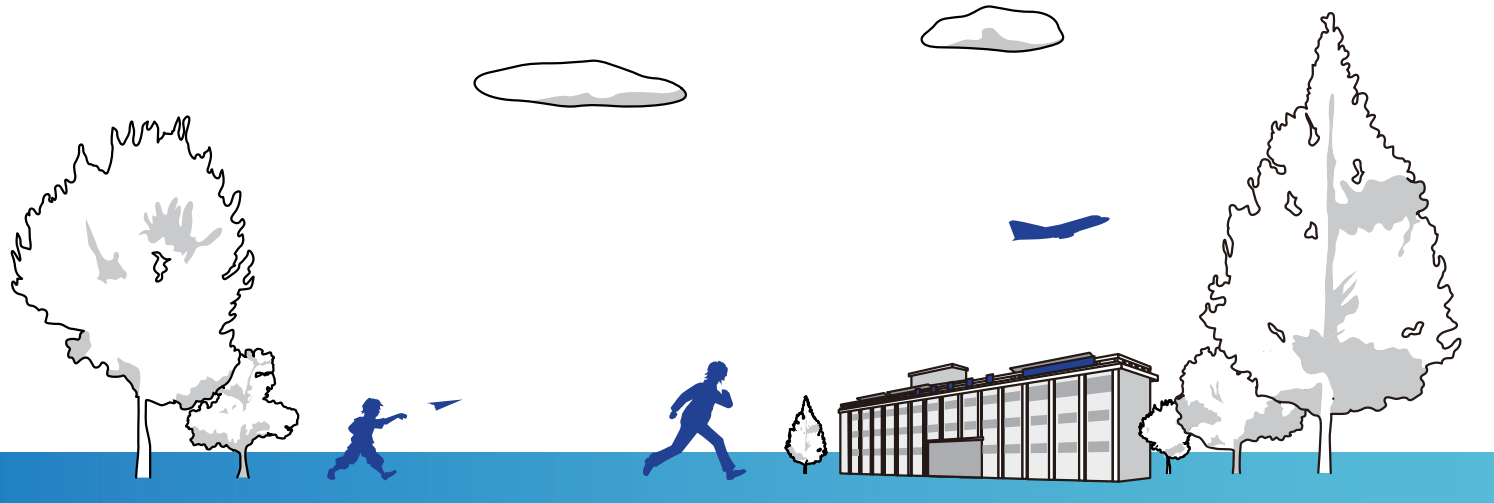
これからも、保護者の方々からのご意見・ご要望も積極的に取り入れ、より良い食事を提供出来るよう栄養士をはじめ調理師・調理員が一丸となって心をこめた食事を作らせていただきます。



Realize your Dream 君の未来を共に創る

呉高専ではホームページで「球技大会」、「高専祭」、「駅伝大会」、「高専体育大会」、「ロボコン大会」等校外内の行事や「授業風景」、「寮の様子」、「クラブ活動」など日々の学生生活を「呉高専日誌」で紹介しています。

<http://www.kure-nct.ac.jp/>



アクセス

- JR 呉線・安芸阿賀駅下車 南へ徒歩約7分
- 広島電鉄バス・先小倉バス停下車 南へ徒歩約10分



2012
高専制度創設50周年
『進化する高専』



(愛称: ココくん)

高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

編集・発行

呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市阿賀南2丁目2-11

TEL 0823-73-8964 E-mail kouhou@kure-nct.ac.jp